

第二百二十二回楽々俳句会(ちば)

令和七年八月十四日(木) 晴

集合 千葉市民活動支援センター9階 十時集合

兼題 金魚

武久 5通り過ぐお国なまりの金魚売

久武 2 渡し場の一本杭や川とんぼ

久 1 1金魚には頬つぺについたご飯あげ

武久 1 名をつけて呼ぶや金魚の姫と殿

久 1 3終戦日今なほつづく砲の音

久 1 昼顔に風の運びし浜の砂

久 2 墓参り手押しポンプに試し水

武 2 夫提げる金魚掬いの二匹かな

武 1 金魚すくえず泣き出した幼い日

久 1 佐倉城茂りの中に子規の句碑

久 庭草と闘ひ合ひて夏の果て

久 金魚玉頬すり寄せて会話の児

久 3 2まだ耳の底に昭和の金魚売

久 1 1縁日やぷくぷく金魚欠伸かな

久 1 ピチピチと金魚のはずむ子供部屋

久 2 快音に万の喚声夏大会

久 2 尾鰭振り優雅に舞し出目金かな

久 2 いつのまに綽名は「金魚」十五の夏

久 1 玄関につばめ注意の老舗宿

久 1 墓誌の記へ時戻しけり初蛭

久 1 昼寝覚めあたりあおお目にしみる

久 1 自分史に若き日あり盆踊り

久 1 乗り出して個性の妙技金魚すくい

久 1 炎天の書店に立ち寄り涼にいる 中七に

久 1 狙はれし金魚の尾鰭逃れたる

1 金魚すくい隅に追い詰めばい破れ 信雄  
1 金魚玉底より数ふ泡あたり 久登  
1 一つ見ても和ませられる金魚かな 園子

人影に頭の揃う金魚かな

夏休み嫁が伸び伸びと部屋狭し とを削除

金魚の尾びれのゆうがさにゆつとり

ゆうがさの金魚の尾鰭ゆつとりと

この猛暑金魚ながめて涼もとむ

猛暑・金魚・涼 季語重ね

虫干されじりじりと土用かな

ひたすらにこぼれて開く白木槿

こぼれては根元装う白木槿

金魚さん今日も危険な紫色

天気図は熱中症や金魚さん

水槽を狙う視線に金魚底へ

覗かれ金魚水槽の底底へ

まだ若い気合を入れて猛暑に勝つ

気合ひ入れ付き合ふ猛暑まだ若し

参加者 成子・園子・育子・恵美子・宣子・弘子・ 今日子

豊隆・粹歩・武彦・久登

投句 信雄・静代・ 欠席・洋子・利太郎・ミチ子

次回予定

九月十一日(木) 十時活動センター 兼題「案山子」

十月九日(木) 十時活動センター 兼題「通草」  
あけび

十一月十七日(木) 一七日(木) 十時活動センター 兼題「山眠る」

十二月十一日(木) 十時登渡神社参集 兼題「熊」

久登

季語重ね